歌に触れる

遊 縁 の 衆（人生を数倍楽しむ会）

◎平成二十三年七月三十日（第九回）

（佐藤　紀之）

東北に 慈悲を示せり 台風の 一過は節電 涼風添えて

ひたむきに ねばり強く あきらめぬ 世界に咲ける なでしこジャパン

我知らぬ 予定調和に 見え隠れ 空気が日本の 正義を語る

便利なる 世の中に出る その前に 学校でこそ 学ぶ不便さ

教室で エールで送り 黒板に 「お疲れ」迎ゆ 友の優しさ

喝采と 溜息渦巻く グラウンド 神のみぞ知る もつれしドラマ

なめらかな 茂吉の筆の 墨の跡 匂いたつのは 梧竹の董陶

（黒沼　貞志）

「東日本大震災震災後四ヶ月が過ぎて詠みし四首」

情報は 表も裏も　花盛り 同われて重し メディアの矜持

震災で メディアの一分 いま何処 知りたき情報 見えぬ悲しさ

帰国せし パリの友との 語らいの 話題はひとつ 原発震災

汚染記事 黙して語れぬ 牛あわれ 語れて語らぬ メディアと行政

（千葉　克明）

久しぶり 孫を囲みて 夕餉の宴 家族の絆 深くおぼゆる

爺婆の 姿見て笑う 孫の顔 いとしさいや増す はるばるの旅

訪ね来て 昼寝し居おり 孫の顔 三歳の明日は 健やかに良し

絵具持つ 手を震わせて 物語り 可愛さばかり 孫の横顔

けずりても けずりても重し 楽茶碗 望みの姿 いつか見るらん

雨多し 雨少なしの 苦しみを 自然の主は 知ってのことか